ワクチン接種開始

乳腺外科医
衆議院議員
厚生労働大臣政務官
大隈和英

コロナへの切り札となるか

人間とウイルスの生存を賭けた知恵比べ

新型コロナウィルス感染症（以下、コロナと略記）の大流行は1年を越え、世界中で250万人以上の命を奪いました。本当にやりきれない思いです。

流行と対策は、いたちごっこのように世界中で困難を極めますが、欧米や日本など寒い冬の季節を迎えた地域でも、徐々に感染者の減少傾向に転じつつあります。私たちは、莫大な犠牲を払った1年を超える経験から、今や人間とウイルスと生存を賭けた知恵比べのようでもあり、人類の英知と協力が不可欠です。

頼れる武器としてのワクチン

そこで非常に大きな役割を果たすのが、ワクチンです。特に致死率の高い海外では、ワクチンへの期待や需要が、日本とは切迫感が異なると言えるでしょう。世界中でワクチンの生産が追いつかないほど、争奪戦になるのは当然とも言えます。

日本では、世界で先駆けて開発に成功した製薬会社のうち、主に米国と英国の3社と、年内に国民全員に行き渡るだけの確保を済ませています。これは、厳しい感染拡大の渦中で達成できた、安倍総理の大きな功績を忘れてはならないでしょう。

日本での問題は、有効性と安全性が確認された海外の試験に対して、日本人にも十分に証明できるかの国内での試験が思うように進まず、現時点で（2月末日時点）承認されたのは1社のワクチンのみであるために、十分なワクチンの量をすぐに供給するのが難しいことです。

そのため、先行する欧米各国に倣い、社会への流行を抑えること、感染すると重症化や命の危険がある高齢者や有病者を守ること、医療提供体制を守る、これら2つを重視する考えに基づいて、国民全体を以下のグループにわけて段階的に接種を行います。

①まず2月から、コロナの治療にあたる医療従事者のうち、ワクチンの効果と安全性をさらに詳しく検証することを兼ねて、約4万人に限定した医療従事者に接種する。②3月から、コロナの治療や搬送に携わる約400万の医療従事者に接種する。③4月16日以降、約3600万人とされる65歳以上の高齢者に接種する。住民票の各市町村で事前予約して接種しますが、高齢者施設などの住民票と別の場所に住んでいる方には例外が認められます。④順調に③が進むと、約820万人の特定の基礎疾患のある人、約200万人の介護従事者等に接種する。⑤それ以降は、60―65歳の方、60歳未満の方と順次拡大して接種する予定です。なお、16歳以下の小児は現時点では海外でも対象外で、妊婦さんは慎重投与となっています。

何よりも安全で安心できること

副反応は非常に稀な確率でも、多くの人に接種すれば、一定レベルの出現が想定されます。また、ワクチン接種の現場の課題が見えてくるでしょう。そのために事前の相談窓口や安心できるケア体制を整備することは必須ですし、今後は国産ワクチンを含めた開発や承認が進み、さらに安定した供給体制を確保するのも、責任ある政治の務めです。加えて、今回は政府が接種費用の全額負担や万一の場合の賠償制度を設けています。また、すでに接種の予約や費用などの電話詐欺が報告されており、これにも注意が必要です。

1日も早く日常を取り戻すために

このように、いよいよワクチン接種が日本でも始まりました。その目指すゴールは、社会全体で多くの人が免疫を獲得して、コロナを無力化してしまうこと。そして、楽しい幸せな日常を取り戻すことでしょう。

多くの命と努力のバトンリレーをつないで生まれた、貴重なワクチンを大切にして、一歩一歩前に進みたいものです。会員のみなさまも孤独にならず、お互いに励ましあって、待望の春を迎える準備をしようではありませんか。